BOLETIM INFORMATIVO INTERNO (GRATUITO) **A・C・A IWATE KENJINKAI DO BRASIL**

ブラジル岩手県人会ニュース

163

Rua Thomaz Gonzaga, 95-M - Liberdade - São Paulo - SP - Brasil • CEP 01506-020
TEL/FAX: (11) 3207-2383• E-mail: iwate@iwate.org.br • www.iwate.org.br

2009年4月発行

懇親会で「賀詞」伝達

4月26日(日)正午から、第40回会員交流懇親・誕生会が会館で行われた。最初に千田会長から県人会の活動促進についての要望挨拶があった。県人会で活動している「手芸の会(代表小崎敬子さん、賛助会員、茨城)」で作った手芸品の贈物や、童謡、唱歌、懐メロなどの披露があった。伊藤春野相談役の音頭で乾杯。会員皆さんによる持ち寄り料理で食事会に入った。

食事が進んだところで達増拓也県知事よりの海外移住高齢者へ贈られる、「賀詞(岩手で生まれた人や住所を置いた会員で年度の元旦で75歳になった方へ贈られる」が会長より、大崎孝行(葛巻)、高橋義明(江釣子)、及川益夫(江釣子)、手嶋良子(旧姓多田、我賀郡谷内田瀬)の4氏(手嶋さんは欠席)に伝達された。

次いで、1月から4月生まれの誕生会が行われ、ケーキと心ばかりのプレゼントが贈られ、皆さんの健康を祝った一日であった。

ふるさとの味を！盛況だった東北まつり

去る3月15日(日)東北6県・北海道ブロック青年部主催「第一回東北まつり」が北海道協会で開催された。各県の郷土食をメインに、各県紹介ビデオ、芸能、食、ビンゴもあり、青年や婦人部員が汗だくで郷土料理作りに懸命で、一時席が足らないほどで約600人が楽しい一日を過ごした。

従来、青年部主催で「運動会」を6回開催していたが、会場が遠い事と準備等で見直しを迫られ今回の「東北まつり」となったもの。

会場内には、提灯や鯉のぼり、各県の文化特産品が並べられ岩手は南部鉄器や秀平塗りなどを展示。舞台スクリーンには県紹介のビデオが映し出され、子供コーナーもあり各世代に東北の文化を紹介した。

食は、北海道ちゃんちゃん焼き、青森—またぎ飯とりんごジュース、秋田—甘酒、酒、岩手—三陸わかめうどん、山形—たまこんにゃく、宮城—冷やしそーめん、福島—きたかたラーメンを出品。

食の特色は量や器を小さくし、他の料理も味わえる事で好評であった。また、参加者はブロックだけでなく一般にも呼びかけ多くの人々との交流が出来て良かったと思う。

神戸移住収容所児童の感想文（２）今回は安倍さん、千葉さん、柴田さんの原稿を紹介します。

安倍 儀郎氏（下閉伊郡山田町出身・昭和7年(1932年)7月サントス港着、2008年4月8日、1年半の長い闘病の末86歳で逝去）

安倍さんは当時１２歳（尋常小學校5年）で、両親に祖父母、兄弟5名の大家族で移住されました。三男定次郎氏（2009年1月3日逝去）は、山田町在の叔母夫婦に子供がいない為、松本家に養子に引取られたが、家族と共にブラジルへ行きたいと願い泣き泣き別れを告げたと、生前の安倍さんはよく話しておられた。安倍氏は県人会理事や事務局長を10年余兼任し温厚な人柄であった。

入所中の所感 安倍儀郎 （拓務時報 昭和7年6月発行 第拾五号）に掲載

家を出る時私達一家は萬歳の聲に送られて來ました。そして教養所にはいってからは先づお友達も出來まして毎日湯にはいっておいしいごはんをたべます。

食事にはそまつな物はたべさせず、それはそれはていねいなものです。そして子供の學校にもはいってちく音きを聞きながら勉強をしてゐます。時々はお話もしてもらったり、動物園にもつれて行ってもらったりしました。全く有りがたく思ひます。休けいの時は屋上でボール投げもしておもしろく遊んで下さいます。又ゆうべは活動寫眞も見せて下さいました。ほんとうに有りがたいことです。明日こゝを出るのが名殘をしくてたまりません。

故郷離れてブラジルへ 千葉勇太郎（岩手懸高一、拓務時報 昭和七年五月発行第拾四号）に掲載）

南米移住。あいなんたる好い言葉だらう。斯くてこそ我々一家が過去三年前よりあこがれにあこがれて居た望みなのだ。天の恵みか地の恵みか、今日茲に實現の機を見るにいたり収容所の諸検査、諸手續總べて見事に通過して愈々明日は我が九千萬の同胞、親戚、知人、朋友、収容所、先生よ「いざさらばじゃ」と別れを告げて、神戸第一突提からサントス丸で勇しく出帆するのだ。洋々たる大洋を横断し、彼の地に奮闘せんとする我々は恰もインド洋や大西洋の巨濤を乗越へ乗越へ躍進する巨船の如く、勇あり、義あり、意氣はつらつたる思ひである。僕等と同航して出帆せんとする大兄諸士よ、よく帝國の面目を保ち、彼の地を本邦唯一の移民地として活躍しようではないか。そして我が帝國の行詰れる人口問題の解決につとめようではないか。此慮を立つにのぞみて、親切と熱誠を以って、絶えへずお世話下さった収容所の方々に深く感謝して明日の出帆を待つ。（高橋勇太郎さんは東磐井郡藤沢町出身、たぶん兄弟と思われる千葉喜平治さんも時期が同じで同船だったと思われる。（消息不明欄に氏名あり）

移住教養所へ来てから 柴田 眞吉 （尋常小学校五年、拓務時報、 昭和八年拾月号號）

僕移住教養所に來て一番さきに親類へはがきでぶじに教養所へはいったことを知らせてやった。入所して二三日たって何の氣なしに講堂へ行ってお話しを聞いてゐた。そしてお話がすんでへやにかへつた。するとみんなが歌を書いた紙やブラジル語のかいている紙などをもらって來た。僕はあんな紙どうしてもらったのだろうと思つてきいて見ると學校に行って來たといった。僕びっくりしてそのことをお母さんに話したお母さんはではあしたから行きなさいといはれたのであくる日みんなと一しょに朝八時半に學校へ行った。そして毎日おしえへられてきた。先生にあしたおわかれをするのはなみだが出るようである。あのやさしい先生とわかれるのがわかれたくないようである。僕は先生のことをえいきゅうにわすれません。僕はブラジルに行ってりっぱにせいこうして先生をよろこばせます。先生それまでたのしみにまってゐて下さい。（柴田氏は昭和８年２月ブエノスアイレス丸で渡泊、二戸郡一戸町小鳥谷出身、父勝三、以下はつ、敏（さとし）、眞吉、美津子、和枝と名簿にあり）

初出場花巻東高校甲子園で準優勝!!

花巻東高校は４月２日、第81回選抜高校野球大会の決勝戦に出場。清峰高校（長崎）と対戦０対１で優勝には繋がらなかったが県勢初の準優勝をつかんだ。

同大会は３月21日に開幕。初戦は鵡川校（北海道）を５－１で下し、２回戦は明豊（大分）４－０、準々決勝は、南陽工（山口）に５－３、準決勝では利府（宮城）に５－２と逆転勝ち。精峰と決勝戦へ。善戦したが力及ばず０－１で終わった。

県勢25年ぶりに準々まで進んだ事から、菊池雄星左腕投手の最速150キロと打撃にも注目されるようになり、ブラジル日系人の間で話題にもなった。

南部美人を飲めるサンパウロの店

JUN SAKAMOTO	TEL 3088-6019	SHINTORI 新鳥	TEL 3283-2455	らーめん和	TEL 3145-1833
A-1	TEL 3145-1833	KINOSHITA 木下	TEL 3849-6940	阿吽	TEL 3145-1833
BUDDHA BAR BRASIL	TEL 3044-6181	SHAYA	TEL 3079-5020	藍染	TEL 5080-3300
				らん月	TEL 3085-6915

県人会の動き

（2009年2・3・4月）

2月3日 工藤溶子さん、久慈浩介氏、鈴木直志氏、吉田恭子さん、岩崎雄亮氏、北栃玲子さんよりお便り受信。
☆ 松本トミさんより故夫定次郎さんを偲ぶ手紙受信。
4 県より日本語教書問合せに対し注文する。
☆ 鈴木章香港県人会幹事より「芙蓉総合リース」香港支社勤務なった旨受信。
5 坂本県国際交流協会事務次長より賛助会費納入の知らせ
9 盛岡の賛助会員の会から会費2009年度納入振込み用紙を発送頂いたとの事。
16 高橋由一金ヶ崎町長より、会長再選へのお祝いあり。
17 国際課北栃主任より、岩手日報に県人会ホームページを取り上げて貰う予定で、記事の送信依頼あり。
19 いわて親善大使レポートを県国際課へ送信。
25 国際課へ定期総会や新年会の記事や写真を送信。
26 県連代表者会に会長出席。
28 2月度役員会開催。役員の補充、行事予定の確認、その他について
3月2日 水沢の山折昭麿氏より、病気のため50周年に欠席のお詫びあり。
3 県より菊池透氏について問合せあり。返信。
☆ 吉田恭子さんより、賛助会員の会役員会の報告あり。
☆ 州水産局より、岩手県に養殖場や研究所について問合わせあり。県に問合せる。
9 県へ平成20年度助成金に対する報告書を郵送。
10 県連定款委員会に会長出席 ※ 丹野（大教諭）来訪懇談す。 ※ 会報162号を国内外へ発送。
12 総領事（大部一秋）公邸にて、総領事着任披露パーティーに会長出席。
☆ 留研生担当中机さんより、武田彩さんが県留学を辞退する旨受信。
15 東北ブロック青年部主催「東北まつり」が北海道協会で開催され盛況であった。
16 稗貫慶朋氏（賛助会員から名古屋在友人祖父江正治氏から 送付された「子供の絵本」80冊の寄贈あり。
22 北栃玲子さんより、定期異動で新年度より商工労働観光部企業立地推進課に移動と受信。
26 栃木県人会で開催された県連定期総会・懇親会に千田会長出席。
28 県より、県旗、日本語教書、県刊行物など受領。

30 リオの鹿田氏よりのメールを、ペトロポリスの安見氏へ転送。
4月1日 アルゼンチン在の及川さおりさんから電話あり。
2 第81回選抜高校野球大会で花巻東高校、初出場で準優勝。花巻市へお祝いのメール発信。
4 ペトロポリスの安見清氏より、公使邸見学について受信。
7 岩間隆総括課長、移動なった北栃さんより受信。 佐々木久六、久保和江さんに会費ボレットを発送。
8 花巻市から宮野目出身の柳原葉子（現性服部）さんについて問合せあり。
9 紫波町役場 経営支援部企画課情報政策室熊谷欣弥氏よりふるさと巡りについて返信あり。
11 役員会開催 議題は40回会員交流懇親誕生会、杉村公使墓参、第2回わんこソバ、県人会運営など。
12 吉田恭子さんより故南部さんのお別れ会が12日県公会堂で行なわれたとの便り。
13 東京事務所在の工藤明雄氏は県議会事務局に移動と受信。
19 川村氏と岩手放送の中村好子さんより、石割桜満開の写真添付あり
20 盛岡市の高橋茂雄氏よりお便りと新聞切抜き受信。
23 ニッケイ新聞「百周年の肖像」出版会に会長、藤村副会長出席。
26 第40回会員交流懇親誕生会あり、4氏へ賀詞の伝達あり。
29 東北6県・北海道演芸祭実行委員会に会長出席。
30 鈴木一夫盛岡市会議員から議会だより受信。

「図書寄贈」

千田まさ 4冊、祖父江正治（静岡在）新しい子供の絵本80冊、倉谷和憲 25冊、坂本竜雄（鳥取県人） 142冊、宮城義晴 1冊、中島さん 2冊、武野正也 1冊、澤根一成 3冊、島崎きよこ 7冊、内田健 19冊、

県人会図書利用

2月 209名 910冊　4月 267名 1101冊
3月 280名 1177冊

逝去

★ 毛利フランシスコシャビエル氏（賛助会員・72歳）は、去る2月病気のため逝去されました。故人のご冥福を祈ります。
★ 辻村洋子さん（花巻出身・行年76歳）は、3月23日心臓疾患のため逝去されました。故人のご冥福を祈ります。

会費納入者名（2～4月）敬称略 年額75レアイス

（2月23日から） 千葉キク、平野マリア、平野トミオ、平野ジョゼカルロス、
（3月） 関めいこ、和田司（賛助、和歌山）、上村敬子、野崎寿美子、菊地義治、多田孝則マウロ、多田登、伊藤範夫（新賛助、愛知）、大志田寿、菊地満、田中キヨ、元粕エイジ（司氏の子息）、笹木栄、工藤五三郎、星キミ子、栃沢千秋、
（4月）大崎孝行、平尾宏子、大田良穂、袰田重夫、二瓶隆一（賛助）、服部葉子、高橋良子、高橋義明、大森仁太郎、阿部安忠、亀ヶ沢梅吉、後藤妙子、塚田よしこ、野村なおみ、田口精基、田口晃記、亀ヶ沢アメリア、

賛助会費納入者名（海外2月20日から）敬称略

清水泰宏（盛岡）、山折昭麿（水沢）、斉藤好弘（盛岡）、渡辺勉（金ヶ崎）、遠藤勇（八幡平）、渡辺勉（花巻）、小田島栄（北上）、田口忠（金ヶ崎）、遠藤勇（八幡平）、渡邊勉（花巻）、小田島栄（北上）、田口忠（金ヶ崎）、3月27日現在

寄付 ・ 寄贈（1・2月）敬称略

お茶菓子 佐々木憲輔、読者多数、55レアイス、手芸の会、125レアイス 高橋良子、50レアイス みちのく俳句会、高橋義明餅米30キロ、カムカムジュース、同濃縮酒、バナナ一箱

父娘二人旅

文 畑 勝喜・写真 畑 カリーナ 真樹

父娘での楽しい食事

「厳美渓温泉」

ブラジルから予約していた宿は、正に渓谷の突端にあり、通された二階の部屋からの眺めは、日本庭園の向うに轟轟と音をたてる流れが見える。

久しぶりの畳の感触、障子を通した優しい光、そして渓谷を流れる水の音。私は浴衣に着替え窓辺の椅子に腰をかけ、〝日本〟をゆったりと楽しんでいた。「ねェ、パパ」娘が声をかけて来た。「若おかみはいつ来るの？」人気のNHKのテレビドラマで知っていたので、旅館はどこでも「若おかみ」が挨拶に現れるものと思い、それを楽しみにしていたらしい。

私は温泉に浸り乍ら手足を一杯に伸ばしてみる。「あァ、日本の温泉は良いなァ、日本人に生まれて良かった」等と変なところで両親に感謝してみる。ブラジルにも温泉はあるけれど、国が大きい為か、どこの施設も大変大まかで情緒が無いのが残念なところ。

やがて、部屋に夕餉の膳が運ばれて来た。仲居さんに娘の質問が飛ぶ。「この旅館て、若おかみはいないんですか？」二世の表現はストレートである。「はい、オーナーが4軒の旅館を経営してまして、そこを一軒一軒まわるものですから、ここに来るのは週に1回か2回ですね」娘は「若おかみ」不在が不満であった様子だが、目の前に並んだ料理に気を取りなおし「フーン、そんなところまで合理化が進んでいるんだね」とか生意気な事を云いながら、父娘は冷えたビールで乾杯したのであった。 娘が特に気に入ったのは、ブラジルでは絶対に口に出来ない「鮎の塩焼き」であった。

娘が気に入った〝鮎の塩焼き〟

入ってなかったズンダ

翌朝、目覚めると娘はもう温泉に入りに行っていた。外を見ると夜来の雨は止み朝の陽が射していた。ところが、渓谷は増水しブラジルの河の様にコーヒー（じゃなくて日本だから味噌汁の）様な色をして、恐ろしい様な急流となっていた。

朝食後、娘と渓谷の見物に出かけた。ここで有名なものに、渓谷の向こうからザルに入ったダンゴがスルスルと降りて来る。というのがある。私の予想では、ダンゴの中身は醤油、あんこ、そしてズンダの3本であった…のだが、渓谷を渡って来た箱を開けて見たら、そこにはあの若草色をしたズンダはなく、黒々としたゴマのダンゴが鎮座しているのであった。枝豆の無い時期であったのかも知れない。

ダンゴの入った篭が降りて来る

束の間の母校訪問

厳美渓の帰り、かって通った現在は中学校になっている山目小学校に寄って見た。当時は学校に登る坂は木立の中にあったと記憶しているが、今はその入り口のところまで商店が並び、注意して良く見ないと分からない。坂を登ってみると昔と変わらず広い校庭があり、中学生達がサッカーに興じていた。

校門の前にたつ

東京からこの学校に転校して来たのだが、初めの内は生徒達のしゃべる純粋で早口な岩手言葉が、理解出来ずまるで外国に来た様であった。担任の先生でさえ言葉は相当に訛っており、気がつくといつの間にか私の名も〝はた〟ではなく〝はだ〟になっていた。小さなころを思い出す束の間の母校訪問であった。

一関ハリストス正教会

最後に、教会に寄ってみようと、今は磐井川上流の萩荘の見晴らしの良い高台に建つ教会を訪ねた。一関の布教の歴史は古く、1872年（明治5年）に始まっている。神父は不在だったが話し好きの奥さんが応待して呉れた。北欧のログハウス風の建物で、今にもトナカイにひかれたサンタクロースのソリが現れそうなムード。

内装は、元の教会から移されたものがほとんどであまり変わっておらず、私は子供の頃を思い出していた。

乗り損ねた新幹線

娘と奥さんの会話は切れ目なく続いている。それを中断させて待たせていたタクシーに乗り込んだ。「運転手さん、11時10分の新幹線に間に合いますかね？」「お客さん!それは無理というもんです」いやに落着き払った返事であった。それでも運転手さんは精一杯狭い道を走って、一関駅に横付けして呉れた。私達はトランクをコロガシ、リュックを背負って改札口に行くと、丁度下りの新幹線が入って来るところであった。階段を登り東北本線の跨線橋を渡って、新幹線の改札を入ってもホームへ行くには、長いエスカレーターを登らなければならない、上のホームに出た時、乗る筈だった「やまびこ45号」は音も無く走り出していた。走り去って行く列車の赤いテールランプがまるでメロドラマのラストシーンの様に見えた。気を取り直して、改札窓口に立った。「やっぱり、間に合わなかったかい」と窓口氏。「お客さんは、どこまで行くの」ゆったりとした口調である。「隣の水沢江刺まで…」「ほなら11時39分に臨時の「やまびこ」が来るから、それで行ったら良い」と指定席の券まで用意して呉れたのだった。たった一駅だから、デッキに立って行きますから…と、指定席は辞退したのだが、「まァまァ」と押切られてしまった。水沢江刺駅には、県人会創立45周年の時に民謡使節団の一員として来伯した民謡歌手の油井幸子さんが迎えに来てくれているのである。昨日も宿から電話してこの時間に着きますからと云ったのに、まさか、その新幹線に乗遅れたとは、思ってもいないだろう。我ながらあきれた話ではありました。 あァ恥ずかしい…。

以下次号へつづく

ふるさとめぐり 20

紫波町

（紫波町ホームページより）

紫波町は盛岡のベッドタウンとして栄え人口も増えつつある。面積239キロ平方、人口３万４千余名。1955年昭和の大合併の中、日詰町、赤石村、赤沢村、佐比内村、志和村、水分村、長岡村、彦部村、古舘村が合併し紫波町となった。町が誇る産物はもち米（ヒメノモチ）、そば、ぶどう、リンゴ、ラ・フランス、紫波もちもち牛、紫波黒豚、紫波自醸ワイン、紫波くちゃ豆（枝豆）、造り酒屋４社（南部杜氏発祥の地）など、観光は平泉関連史跡（五郎沼、陣ヶ丘、走湯神社など）、４大祭りは（城山桜まつり、夏まつり、産業まつり、冬まつりなど）、山屋の田植踊りは重要無形文化財に指定されている。

「銭形平次捕物控」の作家、野村胡堂が生まれた町でもある。この地方には沢山の民話、狐売りと狸売り、蛇と三人娘、おっ母の目ん玉、似顔絵、門前の婆様、年寄り売り、お観音さんからもらったへら、親孝行息子、馬鹿でも惚領・欠けても大椀、乞食からもらった手拭い、糠ぼっこと紅ざらっこ、など11の昔話がある。

リンゴの花と岩手山

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

ブラジル岩手県人会

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL

TEL/FAX (11) 3207-2383

www.iwate.org.br - e-mail: iwate@iwate.org.br

※ ブラジル岩手県人会ニュース　2009年４月発行　163号

IMPRESSO

PODE SER ABERTO PELA ECT